

大切な命や財産を 住宅火災から 守りましょう

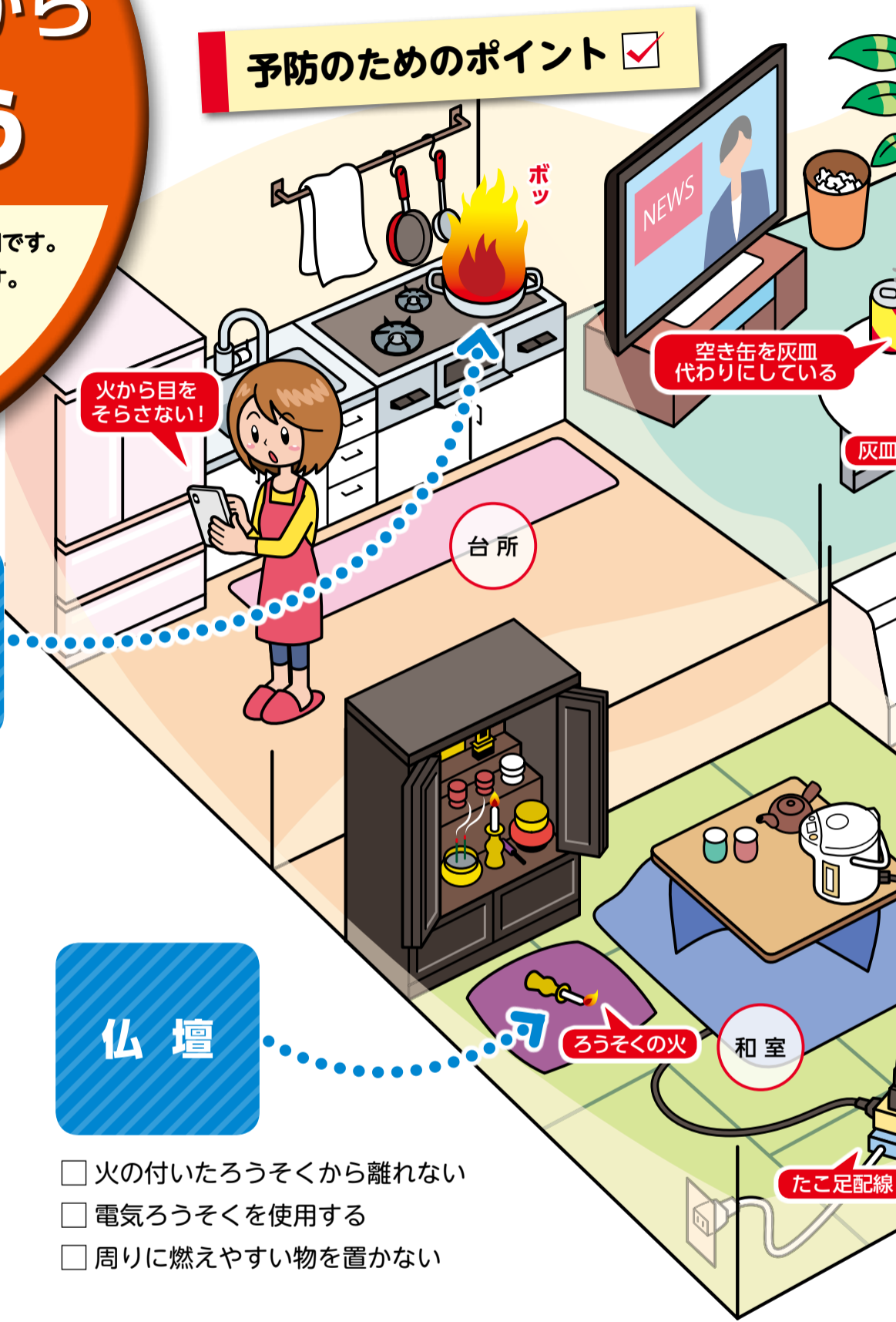
寒くなるこれからの季節は、住宅火災が増加する時期です。
何気ない普段の習慣に火災の危険が潜んでいます。
原因や予防のポイントを知って、住宅火災を未然に防ぎましょう。

☎ 旭消防署予防係 ☎ 951-0119

ルーズ うっかり 思い込み

を
火災

予防のためのポイント



少し目を離れた際に
炎が立ち上ることもあります。
火への注意を
徹底しましょう。

コンロ

- 調理中はその場を離れない
- 火を付けたままコンロの奥の物を取らない
(衣類に火が付くことを防ぐ)
- コンロ周りを整理整頓し、燃えやすい物を置かない
- グリル内を小まめに手入れし、油かすなどをためない
- コンロには過熱防止装置などの安全センサーが付いている

仏壇

- 火の付いたろうそくから離れない
- 電気ろうそくを使用する
- 周りに燃えやすい物を置かない

チェック 1

住宅火災が発生すると…

火災前



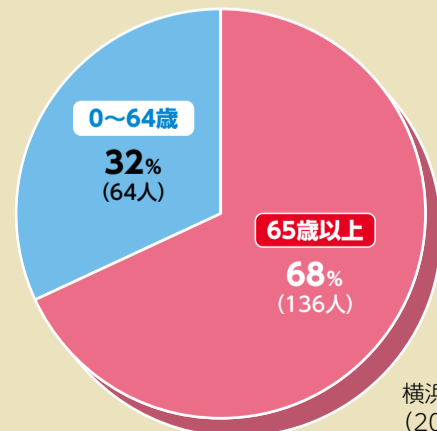
火災後

住宅火災はとても怖い災害です。思い出の詰まった家などの財産が燃えてしまうだけでなく、最悪の場合、自身や家族の大切な命を失うこともあります。

チェック 2

65歳以上の高齢者は注意!

住宅火災死者数(放火自殺を除く)



横浜市の過去10年間の住宅火災による焼死者は、65歳以上の高齢者が約70パーセントを占めています。高齢者が居住する世帯では、火災に対特に注意することが大切です。

横浜市火災統計
(2010年~2019年)より

なくして…住宅火災の芽を摘み取りましょう

予防のための大切な生活習慣を確認しましょう。対策が不十分だと火災の危険性が高くなります。家族全員で習慣を見直しましょう。



たばこ

- 寝たばこをしない
- 灰皿に水を入れる
- 灰皿に吸い殻をためない
- ごみ箱などに吸い殻を直接捨てない

火を甘く見てはいけません。完全に消えていない火が燃え広がることもあります。

ストーブ

- ストープの上に洗濯物を干さない
- 周りに燃えやすい物を置かない
- ストープを使用したまま寝ない
- 石油ストーブの使用中に給油をしない

火は簡単に燃え移ります。「たぶん平気」という思い込みが悲劇を招きます。

電気

便利な電気製品も火災の原因になります。使用環境をチェックしましょう。

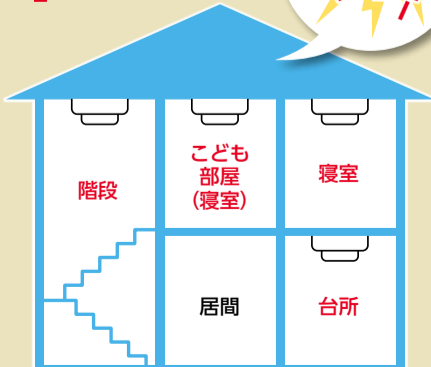
- たこ足配線をしない
- 電気コードをカーペットや家具の下敷きにしない
- 電気コードを束ねたまま使用しない
- 劣化が進んだ古い電気製品やコード、プラグを使用しない

チェック 3

住宅用火災警報器を適正に設置・維持・管理しましょう

- 住宅用火災警報器は、火災が広がる一歩手前の熱や煙を感知して警報音で周囲に知らせます。火災の早期発見にとっても有効な機器です。
- 台所や寝室、階段に設置することが義務付けられています。
- おおむね10年を目安に本体や電池を交換しましょう。
- 作動確認や本体の掃除を定期的に行いましょう。
- 高齢者や障害のある人を対象に職員が設置のお手伝いをします。詳しくは、旭消防署にご連絡ください。

住宅用火災警報器の設置場所



わが家の火災対策は大丈夫かしら？

自宅の状況を確認してもらいたい！

防災訪問を利用しませんか？

火災被害を防ぐため、職員が高齢者宅を訪問し火災予防のアドバイスを行います。ご希望の方は、旭消防署へお気軽にご相談ください。



大切な命や財産を 住宅火災から 守りましょう

寒くなるこれからの季節は、住宅火災が増加する時期です。何気ない普段の習慣に火災の危険が潜んでいます。原因や予防のポイントを知って、住宅火災を未然に防ぎましょう。

旭消防署予防係 ☎ 951-0119

ルーズ うっかり 思い込み をなくして…住宅火災の芽を摘み取りましょう

火災予防のための大切な生活習慣を確認しましょう。対策が不十分だと火災の危険性が高くなります。家族全員で習慣を見直しましょう。

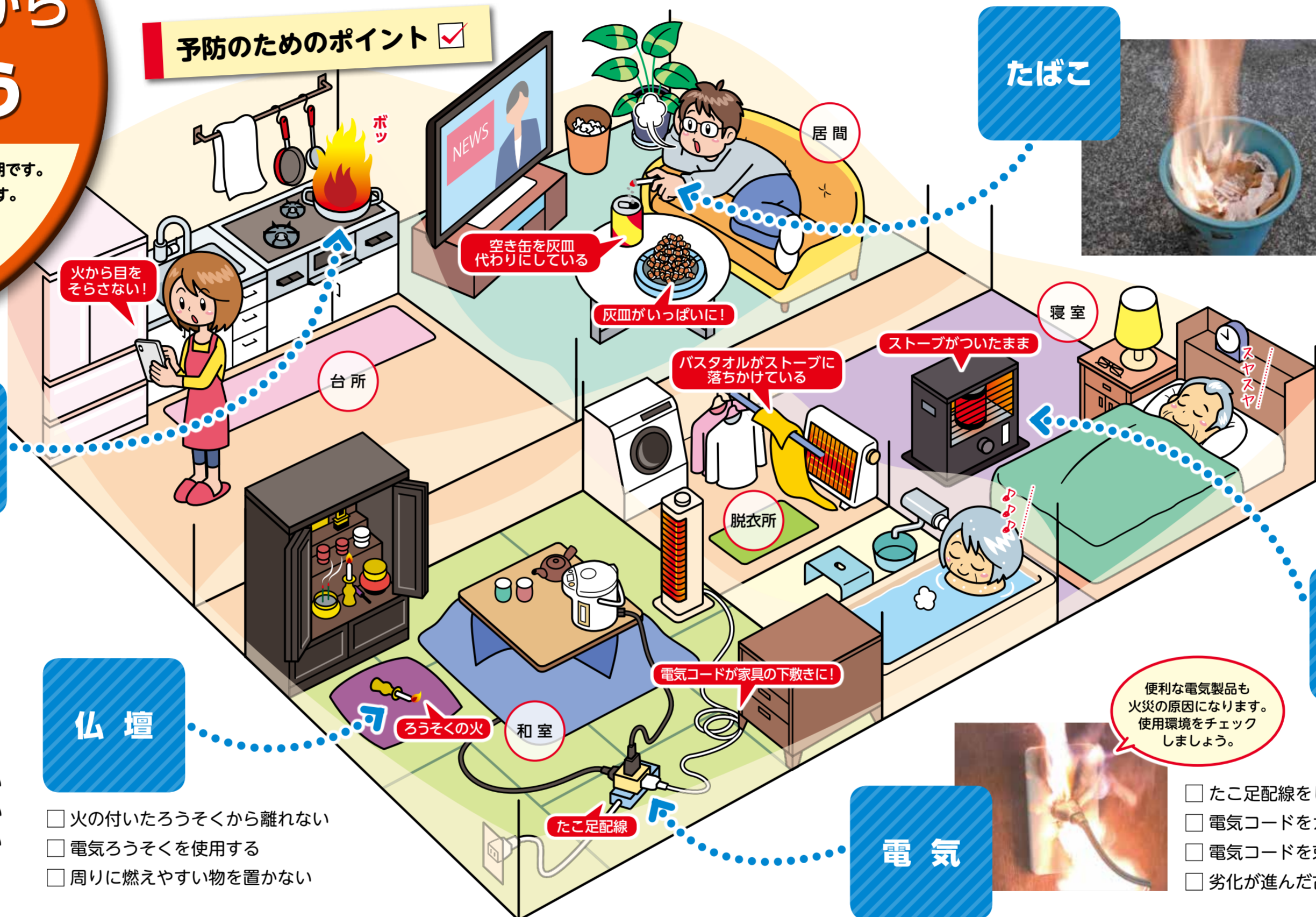
少し目を離した際に炎が立ち上ることもあります。火への注意を徹底しましょう。



- 調理中はその場を離れない
- 火を付けたままコンロの奥の物を取らない(衣類に火が付くことを防ぐ)
- コンロ周りを整理整頓し、燃えやすい物を置かない
- グリル内を小まめに手入れし、油かすなどをためない
- コンロには過熱防止装置などの安全センサーが付いている

コンロ

予防のためのポイント



仏壇

- 火の付いたろうそくから離れない
- 電気ろうそくを使用する
- 周りに燃えやすい物を置かない

たばこ



- 寝たばこをしない
- 灰皿に水を入れる
- 灰皿に吸い殻をためない
- ごみ箱などに吸い殻を直接捨てない

火を甘く見てはいけません。完全に消えていない火が燃え広がることもあります。

- ストープの上に洗濯物を干さない
- 周りに燃えやすい物を置かない
- ストープを使用したまま寝ない
- 石油ストーブの使用中に給油をしない

ストーブ



火は簡単に燃え移ります。「たぶん平気」という思い込みが悲劇を招きます。

電気

- たこ足配線をしない
- 電気コードをカーペットや家具の下敷きにしない
- 電気コードを束ねたまま使用しない
- 劣化が進んだ古い電気製品やコード、プラグを使用しない

チェック 1

住宅火災が発生すると…

火災前



住宅火災はとても怖い災害です。思い出の詰まった家などの財産が燃えてしまうだけでなく、最悪の場合、自身や家族の大切な命を失うこともあります。

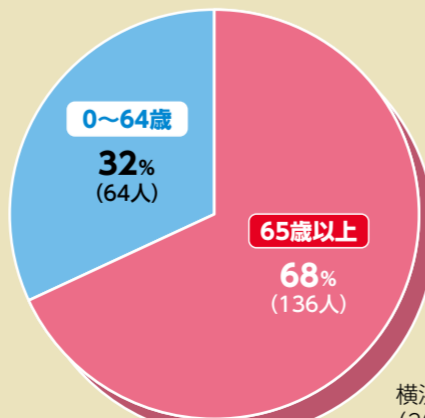
火災後



チェック 2

65歳以上の高齢者は注意!

住宅火災死者数(放火自殺を除く)



横浜市火災統計 (2010年~2019年)より

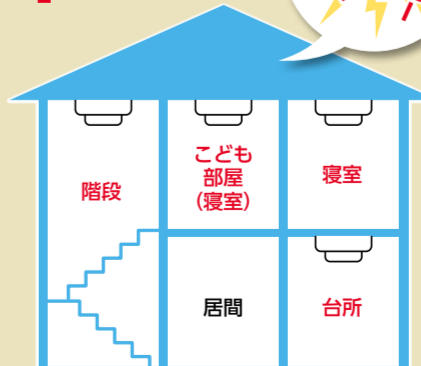
横浜市の過去10年間の住宅火災による焼死者は、65歳以上の高齢者が約70パーセントを占めています。高齢者が居住する世帯では、火災に対して特に注意することが大切です。

チェック 3

住宅用火災警報器を適正に設置・維持・管理しましょう

- 住宅用火災警報器は、火災が広がる一歩手前の熱や煙を感知して警報音で周囲に知らせます。火災の早期発見にとっても有効な機器です。
- 台所や寝室、階段に設置することが義務付けられています。
- おおむね10年を目安に本体や電池を交換しましょう。
- 作動確認や本体の掃除を定期的に行いましょう。
- 高齢者や障害のある人を対象に職員が設置のお手伝いをします。詳しくは、旭消防署にご連絡ください。

住宅用火災警報器の設置場所



わが家の火災対策は大丈夫かしら?

自宅の状況を確認してもらいたい!

防災訪問を利用しませんか?

火災被害を防ぐため、職員が高齢者宅を訪問し火災予防のアドバイスを行います。ご希望の方は、旭消防署へお気軽にご相談ください。

